

ファミリーJoinデイズ

Jリーグはゴールデンウィークの期間を中心として恒例になっている「ファミリーJoinデイズ」を、今年も4月29日から5月10日に、J1・J2リーグ戦の試合会場とその周辺で開催した。ファミリーJoinデイズの実施は、今年が10回目。各クラブが試合前などに、触れ合いや物づくりといった家族で楽しめる多彩な催しを行った。会場には笑顔と歓声が満ちあふれ、キックオフ前のひとときを満喫した参加者にとっては、楽しい思い出となったことだろう。全36クラブのうち、今季Jリーグ入会の3クラブを含む、数クラブのイベントの様相を紹介しよう。

鹿島アントラーズ

鹿島神宮とJoin 必勝祈願

願いはJリーグ3連覇? 必勝祈願の書かれた短冊は、武芸の神が祭られ、古代の防人が武運を祈ったという鹿島神宮に奉納される



©J.LEAGUE PHOTOS

川崎フロンターレ

ファミリーフロンターレ牧場 ～都会の真ん中で搾乳体験～

乳牛の搾乳やバター作りなどを実施。レーン内の子豚を追い、ゴールを目指す「ふれあい豚トンかけこコーナー」では、1着になった川崎市中原区の櫻井麻衣さん(小1)が「楽しかった。またやってみよう」と笑顔で話した



フアジアーノ岡山

©J.LEAGUE PHOTOS



家族で応援しようDAY ～選手とハイタッチ～

普段はできないスタジアム体験。試合の行われる芝のピッチにタッチし、ベンチで記念撮影。そして最後は、練習に入場するあこがれの選手たちとハイタッチ



栃木SC

家族みんなでSCアート! ～イラストをスタジアムに展示しよう～

家族での応援風景、選手の似顔絵などを事前募集。スタジアム外の壁面に掲出された作品を、楽しげに見ていた仲良し3人組

カタレ富山

みんなでチャレンジ! ～ジャンボのり巻き作り～



©J.LEAGUE PHOTOS

200人の親子が参加しての、のり巻き作り。みんなで協力し、「楽しい」「おいしそう」の声と共に完成したのり巻きの長さは、なんと全長50メートル!

徳島ヴォルティス

サッカー教室にはJリーグ百年構想メッセージの城彰二さん、Mr.ピッチが登場。城さんは「お父さんやお母さんが一生懸命に頑張ってるボールを取り、自分の子供にパスをする姿に感動しました」とコメント

ファミリーサッカー教室 ～城彰二さんとMr.ピッチと一緒にサッカーしよう～



ジェフユナイテッド千葉

黄色の折り紙でかぶとを作り、それをかぶって応援しようという企画。クラブマスコットのジェフィとユニティと一緒に、楽しくかぶとを折った。試合中は多くの家族連れが黄色のかぶとをかぶり、スタンドをまっ黄色に染めた



©J.LEAGUE PHOTOS

「Yellow Top 2009」 黄色いかぶとでまっ黄色! ～家族で折り紙! 黄色いかぶとを作って応援しよう～

セレッソ大阪

©J.LEAGUE PHOTOS



家族みんなで楽しもう! ～クイズラリーin長居公園～

大阪長居スタジアムのある長居公園内各所に設置された100問のクイズに参加者が挑戦。参加者の全員にプレゼント、成績上位者には賞品が贈られた

大分トリニータ

ファミリーフラッグス作戦 ～家族でゲーフラを作って、ピッチで選手を応援しよう～



親子でつくったゲーフラを掲げてくれたのは、大分市の鞭馬(むちま)直希くん(小4)。シーズンチケットを購入し、家族全員で大分トリニータを熱く応援しているそうです



育成 ユース年代の選手育成と活躍の舞台 7月4日にいよいよ開幕

「2009 Jユースサンスタートニックカップ 第17回 Jリーグユース選手権大会」開催

Jリーグは7月4日より、ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「2009 Jユースサンスタートニックカップ 第17回 Jリーグユース選手権大会」を開催する。

Jリーグの各クラブは発足当時から、日本サッカー協会、日本クラブユース連盟、地域のサッカークラブ、部活動などとの連携を図り、地域の育成普及活動に力を注いできた。今年で17回目の開催を迎える本大会も、過去に数多くの優秀な選手を輩出しており、年々、その価値、注目度は高まっている。

また、本年よりサンスター株式会社による特別協賛が決定しており、大会名、大会マークなども一新。Jリーグの鬼武健二チェアマンは「今大会に参加する選手の皆さんには、大会を

通じてフェアプレーの精神、そして前を向く勇気あるプレーを発揮してほしい」と期待を寄せた。若く、無限の可能性を持った選手たちが、大会を通じて心身共に大きく成長する姿にぜひ注目してほしい。



新しくなった大会マークを披露する鬼武チェアマン

大会概要

- 大会名称 2009 Jユースサンスタートニックカップ 第17回 Jリーグユース選手権大会
- 主催 財団法人 日本サッカー協会 / 社団法人 日本プロサッカーリーグ / 朝日新聞社 / 日刊スポーツ新聞社
- 共催 日本クラブユースサッカー連盟
- 特別協賛 サンスター株式会社
- 協賛 株式会社日本旅行

《予選リーグ》

- 開催日 7月4日(土)～11月23日(月・祝)
- 大会方式 J1、J2の34クラブ(富山、岡山は不参加)を8グループに分け、各グループ内でホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦。
- Aグループ(5チーム)：札幌 / 山形 / 草津 / 大宮 / F東京
- Bグループ(4チーム)：仙台 / 水戸 / 千葉 / 東京V
- Cグループ(4チーム)：鹿島 / 柏 / 湘南 / 甲府
- Dグループ(5チーム)：栃木 / 浦和 / 川崎F / 横浜FM / 横浜FC
- Eグループ(4チーム)：新潟 / G大阪 / 神戸 / 熊本
- Fグループ(4チーム)：名古屋 / 岐阜 / 京都 / 福岡
- Gグループ(4チーム)：清水 / 広島 / 鳥栖 / 大分
- Hグループ(4チーム)：磐田 / C大阪 / 徳島 / 愛媛
- ※予選リーグ各グループの組み合わせは、前年度主要大会の成績を基に算出したポイントにより決定。
- 試合日程の詳細は6月中旬に発表予定。

《決勝トーナメント》

- 開催日 1回戦：12月6日(日) / NACK5スタジアム大宮、西が丘サッカー場
- 2回戦：12月12日(土)または13日(日) / 出場クラブホームスタジアムなど
- 準々決勝：12月20日(日) / ベストアメニティスタジアム、長居第2陸上競技場
- 準決勝：12月23日(水・祝) / 大阪長居スタジアム
- 決勝：12月27日(日) / 大阪長居スタジアム

芝生 「Jリーグ百年構想 ピッチの日」を実施

Jリーグは5月16日、J1リーグ戦第12節の名古屋グランパス対大宮アルディージャが行われた豊田スタジアムで、「Jリーグ百年構想 ピッチの日」を開催した。小学生20名とその保護者20名が参加。キックオフ前にピッチサイドで選手の練習風景を見学しながら芝生の状態を確認。子供たちは試合終了後にピッチへ入り、メンテナンス担当の指導を受けて、実際に芝生の補修作業を体験した。参加した愛知県知立市の小学4年、牧山光鷹(まきやま こうよう)くんと鶴澤樹(つるざわ いつき)くんは「芝生を

砂で補修するとは思わなかったので、びっくりした。ぼくたちが直したピッチで、選手に頑張ってもらってほしい」と感想を話してくれた。

Jリーグ百年構想では、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくることを目標の一つに掲げてさまざまな取り組みを行っている。「Jリーグ百年構想 ピッチの日」はこれをより具現化するイベントとして、全36クラブが実施。Jリーグ百年構想パートナーである朝日新聞社の協力を得て、子供たちが実際に芝生に触れ、親しむ機会を提供していく。



試合終了後には実際にピッチで芝生の補修を体験

実行委員選任・参与推薦について

Jリーグは、5月19日に開催した理事会で、浦和レッズの実行委員を藤口光紀氏から橋本光夫氏に変更すること、またカターレ富山の実行委員を古田暉彦氏から清原邦彦氏に変更することを承認した。また、藤口光紀氏の退任に伴い、同氏を参与に推薦することを同時に決定した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
浦和レッズ	藤口 光紀 (株)三菱自動車フットボールクラブ 前代表取締役社長	橋本 光夫(はしもと みつお) (株)三菱自動車フットボールクラブ 代表取締役社長
カターレ富山	古田 暉彦 (株)カターレ富山 前代表取締役専務	清原 邦彦(きよはら くにひこ) (株)カターレ富山 代表取締役社長

参与	
藤口 光紀	(株)三菱自動車フットボールクラブ 前代表取締役社長 理事：1998年7月～2005年11月(在任期間 7年4カ月) 実行委員：2006年6月～2009年4月(在任期間 2年10カ月)

第59回「社会を明るくする運動」、平成21年度「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」に協力

Jリーグは昨年に引き続き、法務省が主唱する第59回「社会を明るくする運動」、また、警察庁が実施する平成21年度「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」に協力することを決定した。

名称	第59回「社会を明るくする運動」
主唱	法務省
趣旨	「社会を明るくする運動」は全ての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動
強調月間	2009年7月1日(水)～7月31日(金)
協力内容	告知活動など

名称	平成21年度「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」
強調月間	2009年7月1日(水)～7月31日(金)
協力内容	J1およびJ2リーグ戦試合会場における、場内アナウンス・電光掲示板などでの告知活動



「原点回帰」でブランド力再生。 選手全員で地域に溶け込みを図る



磐田市内の小学校の芝生開き式で、児童にサッカーの魅力を伝える茶野隆行選手

©ジュビロ磐田

スポーツの素晴らしさを伝える

昼休みの磐田市立田原小学校、校舎から駆け出した児童は芝生グラウンドに一直線。太陽の下でゴロゴロと転げ回り、体全体を使って遊ぶ。磐田市が平成15年度から市内の小中学校で進める「緑のグラウンド維持活用推進事業」。ここで使われている芝はジュビロ磐田のホームスタジアム、ヤマハスタジアム(磐田)や練習場のヤマハ大久保グラウンドなどからやってきた。芝生の維持管理のためのエアレーション(通気)作業では毎回、コアを抜き取る。夏前に10センチほどの棒状のコアを小中学校の校庭に敷きならすと、秋には根付いて芝生のグラウンドが完成する。

平成20年度までに芝生グラウンドが完成したのは17校。利用を開始する「芝生開き」には必ず、ジュビロ磐田の選手とマスコットのジュビロくん、ジュビィちゃんが訪問している。平成20年9月に完成した田原小にはDF大井健太郎、MF松浦拓弥、GK八田直樹ら若手5選手が出席し、児童とふれあいを深めるとともに、プロの技術を披露した。「スライディングやボレーシュートなど、土だとためらうプレーが、芝生の上ならできる。小さいころに思いっきり運動することは大切なこと」と松浦選手は強調する。子供たちと一緒に体を動かしながら、選手はサッカーにとど

まらない、スポーツの素晴らしさを伝えている。

ジュビロ磐田育成センターの普及活動でも芝生化した小学校グラウンドを活用している。磐田市内の巡回指導での使用が主で、年間の受講生は、幼稚園・保育園60園、小学校5校で合わせて1,700人以上。専門コーチがサッカーの基本指導はもちろん、バランス感覚や運動能力を発達させるプログラムを実施している。

クラブとしての課題は隣接する人口82万人超の浜松市への浸透。昨年度行ったホームゲームの来場者アンケートでも浜松市からの入場者は3割を超え、約2割の磐田市を上回っている。本年度からの巡回指導では新設の上大之郷グラウンドに複数園を招き、実施回数の集約化を図る。生まれた余力で、浜松市を中心とした周辺での普及活動を行う戦略を練っている。

また、サッカー以外の競技にもホームタウン活動を展開中。ソフトエアロビクやソフトバレーボール、ミニバスケットボール、ヨガなどの講座も開設し、本年度から介護予防の講座もつくる。将来的には地域総合型スポーツクラブに育てる計



石川 運営部長

画で、ホームタウン推進担当の石川操運営部長は「スポーツにはプレーする楽しみのほかに、見る楽しみ、支える楽しみがある。プロのサッカーコーチ、トレーナー、栄養士などジュビロが持つ人材とノウハウを生かし、スポーツを通じて地域の人たちと積極的に関係を深めていきたい」と力を込める。

クラブ全体の改革に乗り出す

日本サッカー協会が進めているJFAこころのプロジェクトの「夢先生」を、今季からジュビロ磐田として積極的に展開する計画もある。現役選手やOBが小学校へ出向いて自分の経験を語り、夢に向かって努力することの大切さを伝える予定。地元ですっかり定着しているのは「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」。毎年秋に磐田市内で開催し、昨年の第11回大会には4,397人が出場した。選手らも全員参加が原則で、若手選手が出場者と一緒に走るほか、監督やベテラン選手もスターターや表彰式のプレゼンターなどを務める。このほかにも、若年層ファン獲得を狙った小学校訪問チケット贈呈、地域との交流を深める美化活動などにも取り組んでいる。

常勝を誇ったジュビロ磐田もここ数年シーズンは低迷が続いた。成績に比例するようにホームゲームの入場者数も2年連続で減少。苦境を脱するため、就任1年目の吉野博行代表取締役社長は「原点回帰」をスローガンに掲げた。3カ年計画で、チーム強化をはじめ、クラブ全体の改革に乗り出している。辻鎮雄取締役営業統括は「Jリーグ参入当時の初心に戻り、今一度地域に溶け込むように努力したい。子供のころから『ジュビロがおれたちの町のチーム』と刷り込むことが重要だと考える。選手一人一人にも地域に溶け込む姿勢を求めていく。

勝ったときだけでなく、負けたときの態度も大事。地域を一つにし、地域の誇りとなるブランド力をさらに高めたい」と意欲を燃やしている。

(静岡新聞社 寺田 拓馬)



辻 取締役

スポーツを通じて豊かな社会の創造を目指す「Jリーグ百年構想」の実現に向けて、JリーグとJクラブはさまざまな施策を展開している。その活動の最前線ともいえるJクラブは、それぞれのホームタウンを中心に、地域の特色、実情などに応じて多彩なプログラムに取り組んでいる。地域に根差し、活力を与え、クラブも地域の人々から刺激を受ける、こうした活動を紹介するシリーズの13回目は、ジュビロ磐田とザスパ草津にスポットを当てた。



26 ザスパ草津



広がる教育現場との連携。 子供たちにスポーツの楽しさを

サッカー指導書の作成

昨年3月、ザスパ草津と伊勢崎市教育委員会は共同で小学4年から6年生を対象にした指導書「ザスパ草津との体育授業プログラム～サッカーを通して運動好きになろう～」を完成させた。同書はサッカーを通じて子供たちの体力やサッカー技能の向上を図ることを目的にしたもので、Jリーグのクラブが小学校の体育指導にかかわるケースは全国でも珍しいという。伊勢崎市教委は昨年度、指導書をもとに市内の小学校24校でザスパの育成コーチを招いて計28回の授業を実施、指導を受けた児童は延べ2,772人に上った。

指導書作成にかかわったザスパの倉尾正典アカデミーダイレクターは「サッカーは多くの学校で体育の授業に取り入れられているが、教諭によって指導内容が限られるのが実情。そこで基礎技術取得から簡単な試合ができるまでを順番に学べるようにした。実際、授業におじゃましたときは『ザスパの人が来た』と子供たちに喜んでもらっています」と、ここまでの成果に手応えを感じている。



倉尾 アカデミー
ダイレクター

温泉で知られる草津町で2002年に産声を上げたザスパ草津。当初、選手たちは町内の旅館やホテルで働き、練習も町内のグラウンドで行っていた。しかし、05年のJリーグ入会に伴い、練習の拠点を県都・前橋市に移すことになる。草津町から生まれたクラブチームが、群馬県のチームとして広く愛されるには何が必要なのか…。念願のJリーグ入会を果たし、あらためてホームタウンとの関係が問われる中、一つの試みとして06年から始めたのが県内小学校を対象にした「訪問サッカー学校」だった。

「訪問サッカー学校」は現役選手や育成スタッフが小学校を訪れ、子供たちへのサッカー指導を通じて、地域との交流を図るもの。初年度は前橋市内のみの実施にとどまったが、翌07年からは玉村町、伊勢崎市、渋川市にも対象を拡大した。選手が参加してのスクールを



伊勢崎市教育委員会と連携して行っている体育授業プログラム。児童たちの人気も高い ©ザスパ草津

07年度は5校で計6回実施。中にはMF松下裕樹、FW後藤涼、GK本田征治といった主力選手がリーグ戦の合間を縫って参加するケースもあり、子供たちを喜ばせた。

伊勢崎市教委との指導書作成は、そんな交流の中から生まれた。市教委のサッカー関係者から「プロの立場から良い授業カリキュラムがつかれないのか」という要望が寄せられたのがきっかけだった。これを受け、倉尾アカデミーダイレクターら育成スタッフは07年11月から市内の5小学校でカリキュラム作成のための授業を計10回実施、市教委関係者と協力して指導案をつくり上げた。指導では習得する技術をドリブル、パス、トラップの3つに絞ったほか、授業の終盤には必ず5～10分程度のミニゲームを行うようにして、初心者でもサッカーの魅力が楽しめるように配慮している。

訪問先の小学校にホームゲームの招待券をプレゼントすると「3割以上の子供たちが見に来てくれる」（倉尾アカデミーダイレクター）といった、思わぬ集客効果も出ている。実際、昨年Jリーグが行った観戦者調査では、観戦者の居住地で前橋市（29.3%）、高崎市（17.4%）に次いで多いのが伊勢崎市（11.5%）だったことから、伊勢崎市への浸透ぶりが際立っていることが分かる。

活動拠点は着実に増える

教育現場との連携は伊勢崎市以外にも広がっている。高崎市教委は昨年、高崎市内の小学校教諭を対象にザスパスタッフを招

いてのサッカー講習会を始めた。今年は5月22日に実施、教諭約100人が指導のノウハウを学んだ。このほか、館林市と藤岡市で今年度から、育成スタッフのほか植木繁晴ゼネラルマネージャー（GM）自らが出向いてのサッカークリニックを主催するなど、県内での活動拠点は着実に増えている。

また、ホームゲームに市町村の名前を付ける「冠マッチ」も今季はすでに4試合が決定、さらに複数の自治体と交渉を進めている。このほか、会場内にブースを出店する「ウェルカムデー」を今季初めて川場村が行うなど、子供たちの指導を通じて県内各市町村とのきずなも徐々に強くなっている。

その半面、課題も残る。一番の問題は小学校の体育でサッカーをするのは冬場が多いという点。そのため、10月から2月にかけては、11人の育成スタッフがフル回転する。また、指導カリキュラムは年度当初にすでに決まっているため、新たな内容を盛り込むことが難しいのも実情だ。倉尾アカデミーダイレクターは「今後は5、6月ごろの基礎体力づくりにもサッカーを取り入れてもらうほか、対象を低学年にも広げて、年間を通じて柔軟に対応できるようにしたい」と語った。

戦後に産声を上げた群馬県が誇るオーケストラ・群馬交響楽団は、県内の小中学校を巡回する移動音楽教室でクラシック音楽の魅力を多くの子供たちに伝えた。今度は平成生まれのザスパ草津が、サッカー指導を通じて子供たちにサッカーの魅力や体を動かすことの楽しさを伝えようとしている。

（上毛新聞社 金子 一男）



「冠マッチ」の会場風景。写真は昨年10月、正田醤油スタジアム群馬での「サンクス前橋デー」 ©ザスパ草津



2008Jリーグ選手等 ホームタウン活動調査

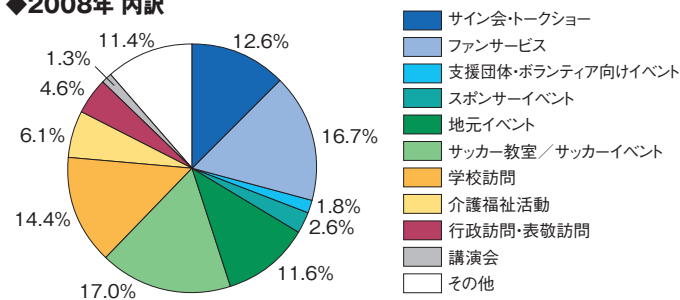
Jリーグは、Jクラブに所属する選手などが、2008年1～12月に、ホームタウン活動に参加した状況を発表した。各クラブの担当者から、年4回提出される活動記録を集計したこの調査によって、選手などによるホームタウン活動の総数が前年比33%増となるなど、あらゆる分野で活性化していることが分かった。Jリーグは今後も、このような集計を通じて、選手などのホームタウン活動を促進していく。

サマリー

- **選手/監督・コーチの活動総数：2,220回/年**
(2006年：1,340回 2007年：1,672回)
- **1クラブ平均総活動数：67.3回/年、5.6回/月**
(2006年：43.2回/年、3.6回/月 2007年：53.9回/年、4.5回/月)
- **社長の活動総数：921回/年**
(2006年：データなし 2007年：534回/年)
- **1クラブ平均社長の活動数：27.9回/年**
(2006年：データなし 2007年：16.9回/年)
- **参加選手総数：1,042人**
(2006年：980人 2007年：982人)
- **選手延べ活動時間：16,882.6時間/年**
(2006年：11,964.2時間 2007年：14,419.4時間)
- **選手平均活動数：9.9回/年**
(2006年：6.2回 2007年：8.6回)
- **選手平均活動時間：16.2時間/年**
(2006年：12.2時間/年 2007年：14.2時間/年)

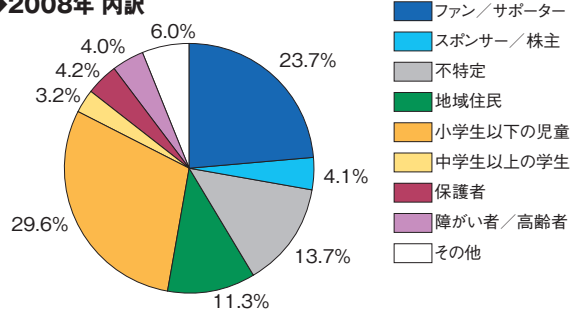
活動ジャンル

◆2008年 内訳



活動対象者

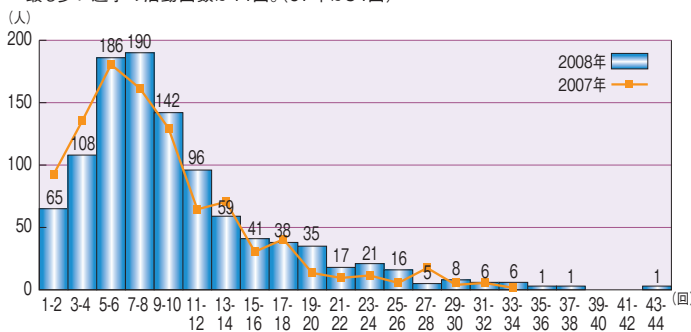
◆2008年 内訳



選手活動

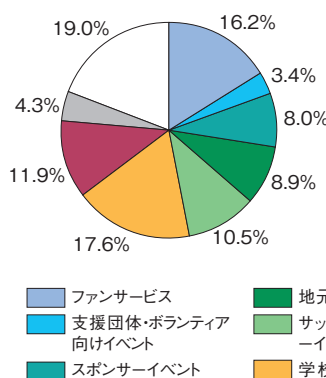
◆2007年/2008年 活動回数分布

・選手一人ひとりの活動回数のピークは07年の「5-6回」から、08年は「7-8回」に移った。
・活動回数が「1-2回」、「3-4回」の選手数が減り、代わりに「5-6回」以上活動する選手が増加したことで、平均活動回数は8.6回から9.9回に伸びている。
・最も多い選手の活動回数は44回。(07年は34回)

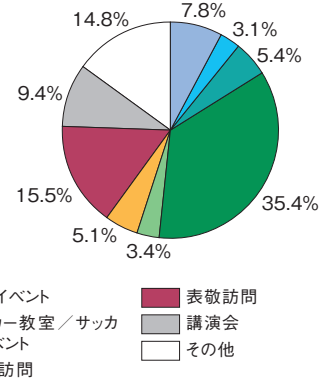


監督・コーチ/社長の活動

◆2008年 監督・コーチの活動



◆2008年 社長の活動



クラブランキング

◆活動数

2008年の選手・監督・コーチの活動数を比較

① ヴィッセル神戸	(174回)
② ガンバ大阪	(133回)
③ 大分トリニータ	(121回)

◆延べ選手参加人数

2008年に参加した選手の延べ数

① ロアッソ熊本	(902人)
② ガンバ大阪	(690人)
③ ヴィッセル神戸	(671人)

◆上位選手の平均出場時間

活動時間上位3位までの選手の1試合平均出場時間

① ジェフユナイテッド千葉	(42.7分)
② ベガルタ仙台	(42.4分)
③ アルビレックス新潟	(40.6分)

◆1つの活動の平均起用選手数

延べ選手参加人数を選手が参加した活動数で割ったもの

① ロアッソ熊本	(9.3人)
② 横浜FC	(7.3人)
③ 浦和レッズ	(6.6人)

◆監督・コーチ/社長の活動数

監督・コーチ

① ロアッソ熊本	(47回)
② 鹿島アントラーズ	(42回)
③ ガンバ大阪	(42回)

社長

① 川崎フロンターレ	(117回)
② FC東京	(107回)
③ 大宮アルディージャ	(102回)

◆クラブ主催/その他主催比率

クラブ主催

① ヴィッセル神戸	(93.1%)
② 鹿島アントラーズ	(90.1%)
③ 湘南ベルマーレ	(90.0%)

その他主催

① サンフレッチェ広島	(92.5%)
② 東京ヴェルディ	(84.2%)
③ 浦和レッズ	(75.9%)

◆選手平均活動時間

選手1人当たりの年間平均活動時間

① ジュビロ磐田	(27.4時間)
② ロアッソ熊本	(26.9時間)
③ サンフレッチェ広島	(26.8時間)



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。